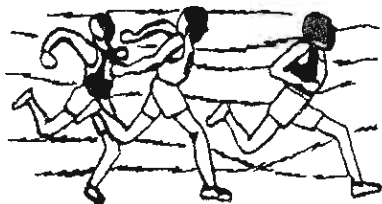




玉入れ——いくつはいったかな——



特に本年は「子どもと親の集い運動会」の企画があり、指導員、世話係・主任の先生方の立案と細かい運営計画等頭の下がるような努力があった。予行演習のない運動会。大会前夜準備を終えて全員がつめたい夜風とまたたく星空をながめ明日の快晴を祈った。

当日、風はやや強かったが快晴、教育委員会、議会の皆様のご臨席を賜わり、生徒代表の誓いの言葉で運動会は始まった。今迄の心配はすべてき憂にすぎなかった。どの種目も教師と生徒と父足が一体となつてすばらしい大会が進行できた。何もできないと思われた子供達が倒れそうになる旗をささえ、器具の運搬を手伝い、自分達の組の応援に手旗をふりふり力一杯応援した。父兄、友達、先生と談笑しながらの昼食等本当に充実した、実りの多い大会ができたことを心から喜ぶとともに関係者の皆さんに心からお礼を申しあげる次第である。

「子どもと親の集い」
運動会をふりかえって

第10号

岡崎市特殊教育推進協議会
昭和58年12月17日発行
(題字 矢作東小 5年)

かいほつ



「子どもと親の集い」
運動会を終えて

特殊教育部長

犬塚 藤保

「便所のスリッパを揃えよう」という、私の呼び掛けに、水頭症の三年男子生徒が毎日「スリッパ揃え」をしてくれた。

しばらくして、「校長先生、もうだめだ。皆を守ってくれないもん。」と言ってきた。「じゃあもう止めるか。」と言うと、「いやこれからもやるけど……。」と悲しげに言った。次の集いで彼の嘆きを全校生徒に訴えた。次の日から便所のスリッパは兎事にそろそろようになった曇りのない美しい心と行為が全校を動かしたのだ。

花は咲き やがて散りて もとの枝にはもどれない
だから短い生命に悔のない輝きと喜びを与えてやりたい。

私は本年始めて特殊教育の部長となったが不安と戸惑いで一杯であった。しかし、たびたびの部会や授業研究会に参加し先生方の真剣な研究と実践にふれて感動をおぼえた。そして心身に障害を持つ気の毒な子等を心から愛し、幸せな人生への道を開いてやろうとする願いをこめた営みに崇高な教育をみた次第である。

連合運動会に参加して

宮嶋 幸代

初めて行われた連合運動会に、徒競走でした。男の子女の子、混ざりました。都合で、午後しか、見合で、全部名前が、呼ばれます。させていただきます。名前と子供さんの姿を照らし合わせたいと思っています。

私のお母さんと楽しく運動ができたことです。私たちは入場の場所へ行っただけならびました。体をしようしてから自分のせきで青組のおうえんをしました。初めは小学校のかけっこでした。とってもかわいらしかったです。

殊学級野外活動 集い運動会



開会式

集いを通して

去る十月二十五日、第二回「子どもと親の集い」は小中合同で六名公園グラウンドで運動会を行った。市の援助を受けて、また、声楽家としても有名な宮嶋幸代さんの特別なご厚志をいただいて、小中の特殊学級児童生徒及び保護者、教師の、ふれあい、語らいの場として企画された。昨年の「山の学習」に続いての試みである。

原則的に、種目演技は障害の程度・時間的なゆとり、安全に主眼を置いて推進された。

小羊生と中学生では、体位や体力に大きな違いがあり、演技の面などでは、考慮しなければならぬ点もある。しかし、そのうえで小中合同運動会には、親も教師も児童・生徒も一体となり、協力して自分たちの運動会をつくり上げていくところに、その大きな意義がある。



運動会

広幡小五年

てんきがよかったけど、さむかったです。つなひきやかけっこやたまひれやいろいろなものを、やっておもしろかったです。しょうひんをもらって、中を見たら、けしごむとノートとえんぴつとペンがはいっていたので、うちにかえてからえをかきました。運動会をやっておもしろかったです。べんとうをたべたあと、ゆうぐであそんだので、おもしろかったです。学校の運動会は、どべだだったのでこんどの運動会は、いちいだったのでうれしかったです。また、らい年もやりたいです。

おじさんおばさんありがとうございます。ありがとうございました。

運動会の思いで
城北中一年

運動会の思いでは、いろいろあります。一番心にのこっていることは、たくさんのおもちやお父さんお母さんと楽しく運動ができたことです。

私は玉ころがしを丁さんと組になってやりました。お母さんでもしました。玉は紙でまいた玉かと思っただけです。

それから、徒競走をやりました。八番目に四人が走りました。私はしらない人と走るのどきどきしていました。一生けんめいに走りましたがどべでした。次の時はがんばります。楽しかったのはジャンカです。音楽にあわせて何回もやりました。音楽がとまった時ジャンケンをするのです。N君のお母さんに会ったのでジャンケンをしました。たくさんあつた紙のわは負けたので全部わたしました。N君のお母さんよりも強い子がいきました。それは下小学校の子でした。とても楽しい運動会でした。もう一度やりたいと思います。帰りのバスの中で、しょうひんとしようじょうをいただきました。

日 程	
10月25日	
・ 9:30 公園到着	・ 1:00 競 技
・ 10:00 開会式	・ 玉入れ
・ 10:30 競 技	・ 徒競争
・ たいそう	・ ジェンカ
・ つなひき	・ たいそう
・ かけっこ	・ 2:00 閉会式
・ 大玉ころがし	・ 2:30 乗車・出発
・ かけっこ	
・ 12:00 昼 食	
(親と子と教師の集い)	

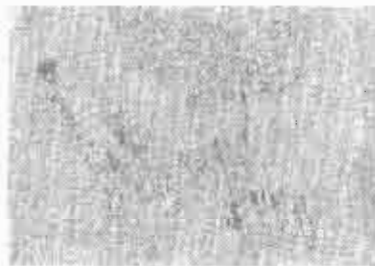
岡崎市小中合同特 子どもと親の



作品展

男川小の作品) 子どもたち一人ひとりがとてもよく描けています。顔の表情もいね。色もよく交えていねいにぬれています。
 根石小の作品) 人物の描き方がおもしろいね。子どもらしい画現です。
 六名小の作品) 走っている子、先生やナントの中で応援している人のようなすが、とてもよく描けています。
 山中の作品) 大土がとても大きく描け子どもたち一人ひとりの表情が嬉しい。色も美しい。
 山中小の作品) 玉入れをしているようすがよく描けています。子どもも楽しそうなお顔をしています。

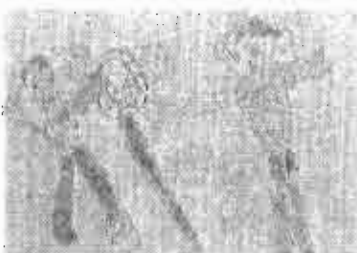
作品短評



根石小 4年



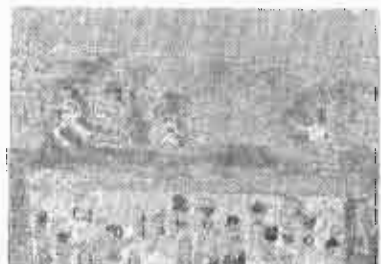
男川小 4年



山中小 4年



美 中 3年



六名小 3年

とてもうれしかったです。コンパ
スやじょうぎはだいに長く使
ます。しょうじょうは「元気よく
できたで賞」でした。教室にかざ
りました。ありがとうございます
た。

運動会

福岡中一年

六名公園で運動会をやった。式
まで少し時間があったので、富島
さんと遊んでいた。そうしたら、
先生が呼びに来たのですぐ行きま
した。式が終わってから体操をや
りました。

だいたいが小学校の子がやるの
で、中学はあんまりなかった。で
も、大玉ころがしは、少しおもし
ろかった。玉がゴムでできてい
て、早かったので、ころがって行くのが
早かった。富島さんがすぐはり
きっているの、わらってしまっ
た。

それから、ふんすいのところ
遊んでいたら、小さな子が来たの
で、いっしょに遊んであげていた
ら、もう昼になってしまった。昼
ご飯を先生と富島さんと私で食
べた。それから、少しまた運動会を
やって、終わりの式になった。

宮嶋幸代さんという人が、定規



- 「あーよかった。一ばんになれ
て、よかった。」
- 「フレ、フレ、赤組。フレ
ー、フレ、赤組。」
- 「おもしろかった。」
- 「おやつがほしい。」
- 「また、やるといいね。」
- 「ぼくも、やりたいな。」
- 「もっと走りたいかった。」
- 「ジェンカを続けたかった。」
- 「かけっこは一等だったよ。」
- 「楽しかった。」

親の声

アニーから

◆ 私も子供から「お母さんきて
ね」という言葉をもらい、子供
と一緒に、日々が近づくにつれ
て楽しみに待ちました。

◆ 子供達は仲間同志で、応援の
練習方法を考え、毎日、一生け
ん命練習していたようです。

◆ いよいよ当日、少し肌寒い日
になりましたが、市の体育館へ
着くと、朝早くから準備にあた
られた先生方、市の教育委員会
の方々のお力を得て素晴らしい会
場が出来上がっていました。

◆ 子供達の目も、だんだんと輝
き活気に満ちてきました。
一つ一つの競技が始まり、終
るたび力一ぱい応援する子、競
技する子、どの子も本当にのび
びと楽しそうにやっていました。

◆ 勿論、学校の中では、どんな
に頑張っても目立たない子や、
一緒に参加できない子も、この
日ばかりは主役です。

◆ 「お母さん、僕すごく早く走
れたよ」と、まるで夢でもみた
ように話をする子供達の輝いた
目を見て、「ウワー」「よかつ

たね」「がんばったね」と抱き
合う親と子の姿。
◆ わが子ののびのびと行動して
いる中から新しい発見をしたり
子供達も自分の新しい面を発見
して、自分でもやれるんだとい
う自信をつけた子。
◆ これから学校を巣立つ子にと
っても本当に思い出深い一日に
なりました。

私の抱負

矢作東小 鳥居 裕子

特殊学級を担任して、もう四年
め。はじめて担任したころ、子ど
も達を前にして、何を言っても理
解してもらえず何度目ペンをか
いたものでした。あの苦しみは、今
も同じ。ちがうのは、私
に根気強さが出たこと。
毎日毎日、ひらがなを指
導しても、ちつとも進歩
しなかったK児が、ある
日ふと書けたり読めたり
できるようになってい
ることに気づく。そんな時
は、ああ、毎日やってい
たことは、無駄じゃなかったと感
じます。子ども達は、どんな場合
でも、感情を表に出すことが少な
く、進歩も全くしてないようにみ
えます。話をしても、わかつてい
るのかわからないのか本当にわか
ない、私は、信じています。

◆ この素晴らしい計画をしてくだ
さった市の教育委員会の方々、
また、宮嶋幸代様からの特殊教
育への深いご理解と、あたたか
いご寄付をいただき深く感謝い
たします。

◆ 本当にありがとうございます

教師の声

アンケートから



◆ もう少し早めの時期がよい。できれば五・六月か九月頃に出ないか。

◆ 日時・場所は適当だと思いません。

◆ 雨天の場合も考慮して体育館で行ってもよい。

◆ 日程は、ゆったりしていても無理のない時間配分でよかったと思う。

◆ 日程は、季節的にもこの程度でよい。

◆ 一日でなくて半日位では……。

◆ 開・閉会式は、子供によい経験になりました。

◆ 体操は、音楽に合わせてやると、もっと楽しいと思う。第一ラジオ体操を毎朝やっているが、音楽を聞いて体操をしているようだから、統一したものがあれば曲ありの体操を、歌が元気よく歌えた。

◆ 開・閉会式は正式なものではなくて簡略にしたらどうか。

◆ 短時間の式にまとめられよかったと思う。

◆ 式次第・内容ともよかった。

◆ お話を聞いている間は「休め」の号令をかけていただけるとよかった。ちかひのことばがとても印象的でした。

◆ 重度の子供にできるような種目があつたらと思う。

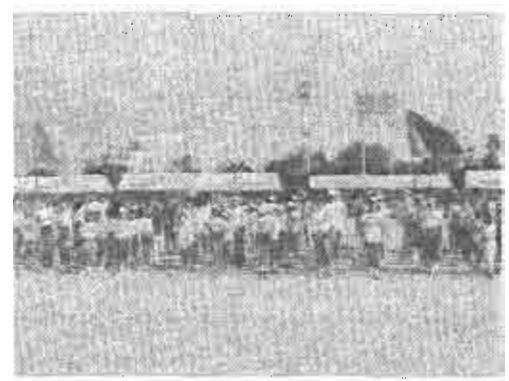
◆ 競争に、もっとファイトの出る方法はないだろうか。

◆ かわった道具(子供が目を見はるような)例えば、ダルマぼうしなどを使つたらどうか。

◆ 中学生、高学年など徒競走の距離を順に少しずつ長くしたらと思う。もの足りないような感じがした。

◆ 種目は楽しくよかった。

◆ ジェンカについては楽しかった。だんだん増え、最後に一列



◆ 特に係になった先生方には、大変であつたと思う。感謝しております。

◆ 中学生で手伝える生徒をもつと働いてもらえばよかった。

◆ 学校対抗でなくて、参加することに意義ありというのが大変よかった。

◆ 背番号により、チームがわかり、子供の名前もわかりよい。

◆ チーム分けは、近隣の学区に分で組めたらと思う。

◆ 親の集いは、大変なごやかだった。ただ、他校の親との交流があまりできなかったのが残念。

◆ バス送迎は、とても便利だ。

◆ 子供達は喜んで参加していた。

◆ お母さんと一緒に甘えながらも、思い切つて活動できた。

◆ 「かけっこは一等だつたよ」など明るい声や顔が見られてよかった。満足していたようだ。

◆ 他校の生徒と知り合いになれて喜んでた。

◆ 附養とか盲・ろう学校など同じ市内の小・中学生として、交流したらいかげしょう。

◆ 応援を含め、自分たちが全体になれるということで積極的だった。初めての試みとしては大成功ではなかつたでしょうか。

学級スナッフ

大きな大根

大門小

◆ 演技種目にできるだけ父兄の参加をさせる。

◆ 小・中と分けて実施したらどうか、子供の活動の場が生まれる。

◆ 参加者が楽しめる種目が工夫されていく好評だつた。

◆ 子どもの力に合った種目でした。親も生徒も楽しめた。

◆ 準備が大変だつたと聞きまして、もっと多勢によびかけて欲しい。

◆ 日が短いのに小人数での仕度は大変である。各校一名以上出てブロック毎の割当てをしては、競技の進行上、子供の整列や名簿との照らし合わせに人員がたりなかつた。



◆ わつしよい、わつしよいと造り物の大根を六人の級の子供達でついでいる。大きな大根を抜いて「家へ持つて行きましょう」と、喜んでいる場である。

◆ 国語の共通教材を一年の子から六年生まで理解を深めるために、動作化や劇遊びを取り入れて楽しくしている。

◆ 友達のことを真似したり、小さい子に教えている大きい子供達。みんないっしょにすることを喜びいっしょにすることを楽しんでる。優しい人間関係と僕もできる。自信にあふれているようだ。

親の気持ち

緑丘小 山田 惇子

「A子の結婚式には一番お世話になった先生をお招きしたかったのですが、A子が特殊学級にいたことは、なるべくそうっとしておきたかったのです……。」

と、A子さんのお母さんが、結婚写真と引出物と新婚旅行のおみやげまでそえて、式後しばらくたってからわたしの家まで来て下さいました。

昭和三十八年の五月に、竜海中学校に特殊学級が開設された当初わたしは桑子先生と特殊学級の担任になりました。そのとき一番問題になりました。

少人数で、能力に応じた個別指導をしてもらえる特殊学級のよさは十分わかりながら、なおメンツにこだわるのは、人の子の親としてはごくあたりまえの感情です。



職場実習へ集合
東岡崎へ



平均台を使った
体育の授業

の行動が多く、集団から孤立し、集中力も足りないため、学習もふるいません。

将来は自分の経営している鉄工場をまかせたい一人息子の子のよう

な状態を父親ははげしく思い、家族や担任と相談した結果、能力に応じた個別指導をしてもらえる特殊学級への編入を希望しました。

しかし実際に我が子を特殊学級へ編入させた父親に、新しい不安が次々とわきあがってきました。

その一つは特殊学級が少人数なことです。ただでさえ集団生活になじめない我が子を、小人数の友達の中で生活させることが、マイナスになることが多いのではないかと不安です。

二つめは職業指導のポイントをおき、技術や働くことの多いカリキュラムに対する不安です。

三つめは一年生から三年生まで同じ学級で学習する不満です。

その他にも友達との質・原学級との交流の様子などに、不満や不安を感じ、Tさんを普通学級へ戻してほしいとさえ言いはじめました。父親のこの不安や不満はTさんに大きく影響しました。ただでさえ足りなかつた集中力はますます低下し、授業中にふらふらと席を

離れたり、始業のベルが鳴ってもなかなか教室へこなかったりすることがたび重なり、遂には登校を拒否するようになり、遂には学校を

このようにTさんにも一つの転機が訪れました。それは夏休み中におこなったプラスチック工場での職場実習です。そこではプラスチックのボビーの両端に摩擦しないように金属のリングをはめこむ

仕事を主としてやりましたが、Tさんはこの仕事に興味を持ち、一般の社員に負けない成績をおさめ、課長さんに卒業後の就職さえ約束されたのです。

これを転機とし、Tさんも父親も落ち着きを取り戻しました。

情緒障害児教育研究

サークルについて

梅園小 後藤 君平

特殊学級を担任すると、だれでも必ず情緒障害児との出会いがあり、特殊教育への本格的な追求がはじまるようである。できない子をできるようにしようとする開発的な指導は勿論のこと、生活への適応性から人の生き方まで見とおしたくなってくる。

この会の歴史も古く、毎年、同

じような問題にこだわってきたがこの繰り返しの中での進歩を生み出さなければならぬ。近年、過剰なまでの情報に恵まれた時代に

なってきたが、それを裏証する現場を構築したいものである。

◎授業のわき出る学級経営。
◎教材をあたためる。
◎子供を見つめる。

の三つが働いていれば自らひらめいてくるのでなからうか。

教室からすばらしい教育の光を。

編集後記

「子どもと親の集い」、あの日の子ども達の歓声が聞こえる。一人ひとり、力いっぱい活動した運動会。自分のやる演技で精いっぱい小学生たちだが、「Aちゃん、がんばれ！」と、すすんで応援している光景もあった。当日の中学生の係の仕事ぶりを見ていて自分たちがやらなくては……という意欲が感じられる。今後の課題も勿論あるが、この運動会のような生き生きとした学習を生かす、生き生きとした学習をさせていきたいと思う。